

令和5年度 福島県歴史資料館収蔵資料展

空を眺めて

—江戸・明治時代の天文・大気現象など—

令和5年

7/29 

…▶ 11/26 

前期:7/29(土)~10/1(日) 後期:10/3(火)~11/26(日)
※前期と後期で展示内容が変わります。

福島県歴史資料館展示室(とうほう・みんなの文化センター内)

開館時間 午前9時 ▶ 午後5時(入館は午後4時30分まで)


入館料 無料

休館日 毎週月曜日(9/18(月・祝)・10/9(月・祝)は開館)
9/19(火)・10/10(火)は休館


展示解説会 8/5(土)・9/10(日)・10/7(土)・11/5(日)
各回とも午後1時30分より、50分程度担当者が解説します。


主催  公益財団法人 福島県文化振興財団

協力 郡山市ふれあい科学館 スペースパーク
田村市星の村天文台

関連イベント 渡部潤一氏講演会 

(国立天文台上席教授・国際天文学連合副会長)

 「日本人はいかに宇宙を愛でてきたか」

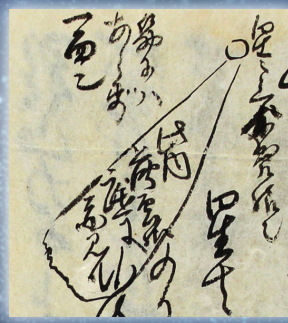
日時:8/17(木) 午前10時~11時45分 

会場:とうほう・みんなの文化センター 小ホール

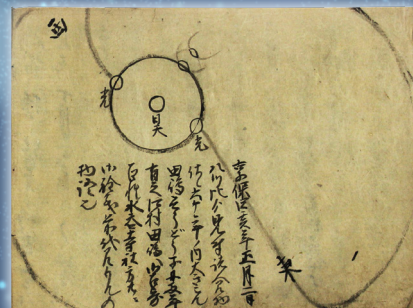
入場料:無料

※詳細は裏面をご覧ください

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、会期・休館日を変更する場合があります。



◀「累世年鑑」(渡辺弥平治家文書451)に描かれた「1811年の大彗星」



▲「一代日記并萬覚書」(檜枝岐村文書291)に描かれた享保4年(1719)正月2日の暈・幻日など

空を眺めて

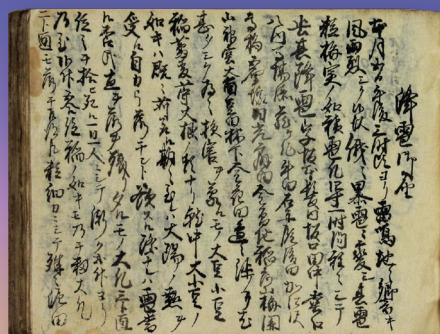
江戸・明治時代の天文・大気現象など

令和5年8月7日より郡山市で開催される「国際天文学連合アジア太平洋地域の天文学に関する国際会議」(APRIM)に合わせて、天文学等への関心を高める機会になることを期待し、江戸・明治時代の人々が見聞きした天文・大気現象に関する史料を取り上げます。

当時の人々にとって、日々の天気や天体の動きは大きな関心事の一つであり、まれな虹・雹といった現象を観察しては日記などに書き記し、天文学・暦学の知識をもとに日食・月食などを観望していました。また、印象的な彗星・火球や、摩訶不思議な暈(ハロ)・幻日、希少なオーロラ出現などに接しては、特に強い関心を抱き記録を残しています。当時の人々の目に映った空に注目し、空の現象をどのように受け止めていたのかについて迫ります。



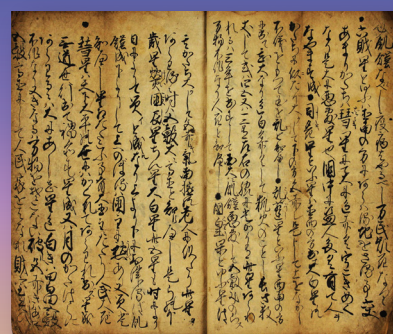
▲『文化十三丙子暦』に記された文化13年(1816)2月1日の火球とみられる記録(日光院文書58)



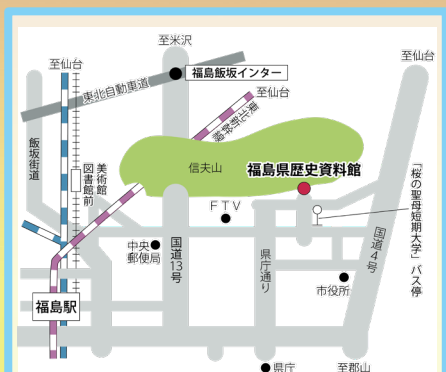
▲「[諸御用日記]」に記された明治10年(1877)10月5日の降雹の報告(遠藤一海家文書78)



▲明治20年(1887)8月19日の皆既日食を報じた「百一年目の日蝕」(個人蔵)



▲天文現象などに基づく予測が記された『東方朔秘傳置文』(庄司家文書II 3315)



福島県歴史資料館

〒960-8116
福島県福島市春日町5-54
TEL 024-534-9193
FAX 024-534-9195
E-mail history@fcp.or.jp



福島県歴史資料館

検索

関連イベント

渡部潤一氏講演会

(国立天文台 席上教授・国際天文学連合副会長)

「日本人はいかに
宇宙を愛でてきたか」



日時: 8月17日(木)
午前10時～
11時45分

会場: とうほう・みんなの文化センター
小ホール(福島市春日町5-54)

入場料: 無料

定員: 200名(先着順、事前申込不要)